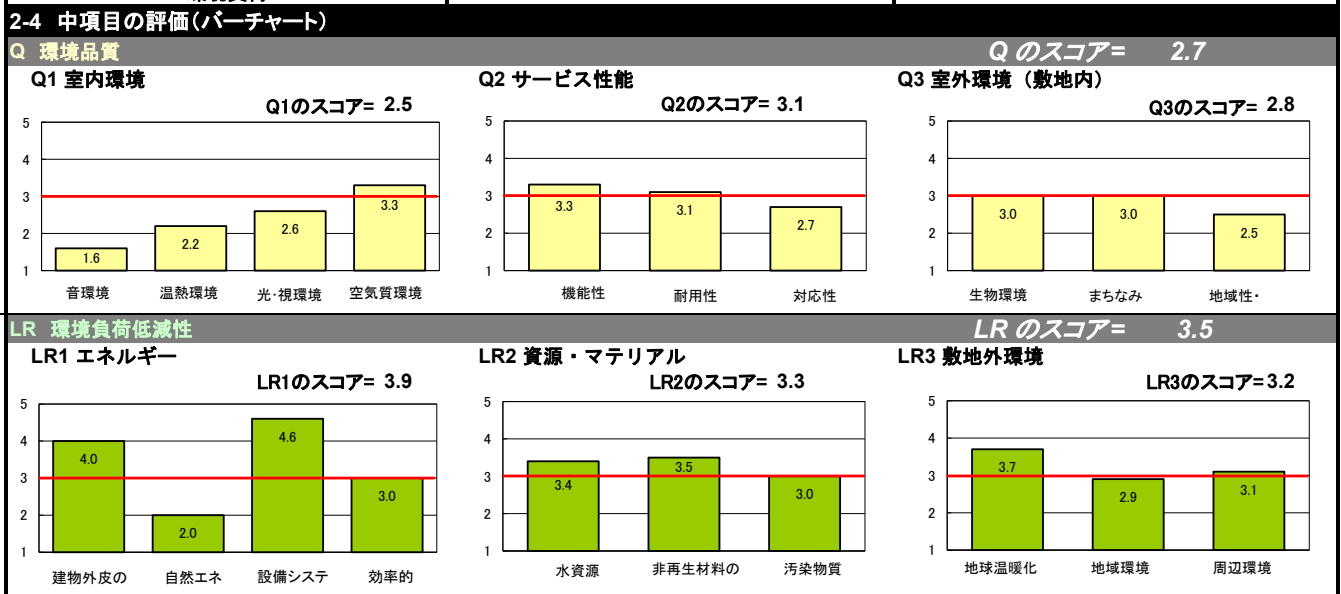
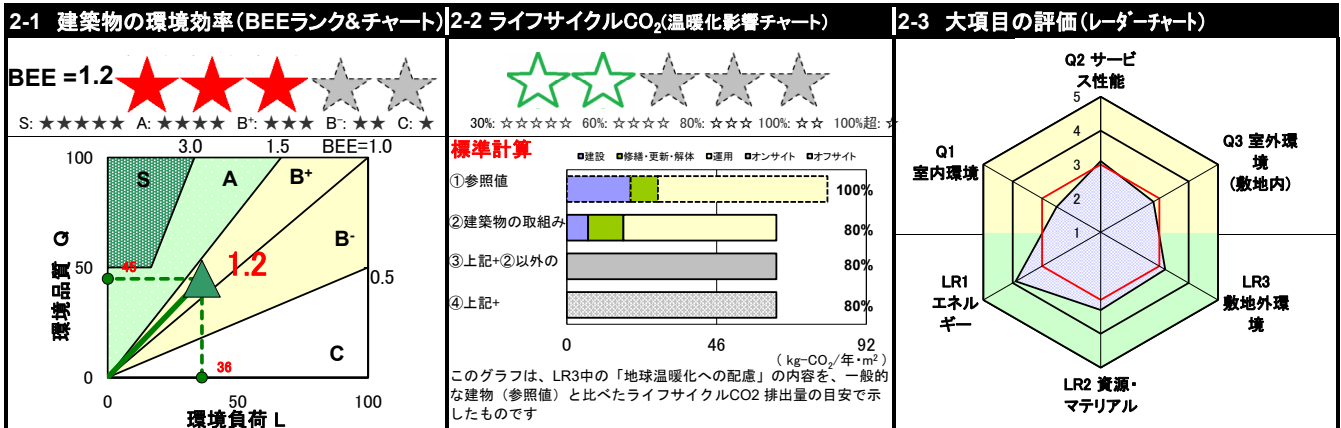


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ザ・ライオンズフォーシア外神田	階数	地上9F	
建設地	東京都千代田区	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	76 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2025年2月28日	
敷地面積	267 m ²	作成者	株式会社イズミコンサルティング	
建築面積	210 m ²	確認日	2025年2月28日	
延床面積	1,699 m ²	確認者	株式会社日企設計	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 ・断熱性の高い材料の採用と節水器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。 ・敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行うなど、環境に配慮している。			-
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。	
LR1 エネルギー ・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・広告物照明はない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
ザ・ライオンズフォーシア外神田

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.7	
Q1 室内環境								2.5	
1 音環境				1.0	0.15	1.8	1.00	1.6	
1.1 室内騒音レベル		—		1.0	0.50	1.0	0.50		
1.2 遮音		—		1.0	0.50	2.6	0.50		
1 開口部遮音性能		—		1.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音		—		-	-	-	-		
2 温熱環境				1.0	0.35	2.5	1.00	2.2	
2.1 室温制御		—		1.0	1.00	2.1	0.50		
1 室温		—		-	-	1.0	0.63		
2 外皮性能		【住】断熱性能の高い建築材を採用		1.0	1.00	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		—		-	-	3.0	0.20		
2.3 空調方式		—		-	-	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.2	0.25	2.7	1.00	2.6	
3.1 昼光利用		—		1.8	0.30	1.4	0.50		
1 昼光率		—		1.0	0.60	1.0	0.50		
2 方位別開口		—		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		—		1.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		【住】カーテン・庇による昼光制御		1.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		—		1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		【共】1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.2	0.25	3.3	1.00	3.3	
4.1 発生源対策		—		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		—		2.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量		—		1.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		—		-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性				3.3	0.40	3.4	1.00	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		各住戸にGbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境整備		-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		4.0	0.30	1.0	0.40		
1 広さ感・景観		—		-	-	1.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
3 内装計画		建物コンセプトに基づく内装デザイン		4.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		品確法等級3相当		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上材を使用		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等		4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり	—	-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	—	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材だけではなく、仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1	生物環境の保全と創出	—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	—	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化	効率のよい設備機器を導入	4.6	0.50	-	-	4.6
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	給水器具の過半に節水機能のあるものを採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床シート、床:ビニル床タイル	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の分離が容易である	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	—	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
2	振動	—	-	-	-	-	
3	悪臭	—	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物照明を設置しない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

ザ・ライオンズフォーシア外神田

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0	-	2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	-	-	2.0	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	0.0%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	0.0㎡/人	病床	0.0㎡/床	シングル	0.0㎡ ツイン	0.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	0 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	- N/m ²					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

外構緑化指数	42%	建物緑化指数	0%					
空地率	0%	水平投影面積率	28%	地表面対策面積率	11%	舗装面積率	0%	
BPI/BPI _m	- 断熱等性能等級		等級4 相当					
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%			
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%			
BEI/BEI _m	非住宅	- 住宅	- 太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	0% 隣棟間隔指標Rw -								
地表面対策面積率	17.7%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	0 m	基準高さHb	0 m				
緑地	m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	200m ²	再帰性反射対策面	m ²